

仙台の伝統的な門松を再現しました

かつて、仙台やその周辺で飾られていた門松は、現在一般的に見られるものとは違い、松や竹などを門のように組み上げた形をしていました。しかし、仙台の中心部では明治40年ころには、ほとんど姿を消し、郊外でも昭和40年代には飾る家も少なくなり、今ではほとんど見るができなくなっています。

仙台市博物館では、数年前から仙台の門松に関する調査を継続して行い、いくつかの関連する古文書や絵画資料などを見つけることができました。その結果、江戸時代に仙台城に飾られていた門松の大きさや数、また、材料が根白石村(泉区根白石)から献上されていたことなどがわかってきました。

仙台城内に飾られた門松は、直径15cm、長さ3m以上の栗の木の柱に竹や松を添え、根元を檜の割り木で囲むというもので、その高さは3mから4mに及んだと推定されます。

仙台歴史ミュージアムネットワーク(歴ネット)では、仙台市博物館の調査成果に加え、泉区根白石で昔ながらの門松を受け継いでいる旧家の方の協力を得て、仙台の伝統的な門松を再現しました。できるだけ多くの市民の皆様にご覧頂けるよう、今年度は歴ネット参加施設を含め、下記の9施設で、門松の展示を行います。

東日本大震災の翌年度から始まったこの門松の再現展示は、今年度で12回目を迎えます。

仙台の伝統や地域性の一端を、この門松から感じ取っていただければ幸いです。



▲瑞鳳殿



▲仙台市戦災復興記念館



▲仙台文学館



▲仙台市歴史民俗資料館



▲地底の森ミュージアム



▲仙台市縄文の森広場



▲史跡陸奥国分寺・尼寺跡ガイダンス施設

■各館の展示期間(予定)

施設名	展示期間	
	※休館日、開館時間等は各施設へお問い合わせ下さい	
仙台市歴史民俗資料館	12月2日(土)～1月31日(水)	022-295-3956
仙台市戦災復興記念館	12月13日(水)～1月8日(月・祝)	022-263-6931
せんだいメディアテーク	12月14日(木)～12月17日(日)	(仙台市博物館) 022-225-3074
仙臺緑彩館	12月18日(月)～1月18日(木)	(仙台市博物館) 022-225-3074
地底の森ミュージアム	12月19日(火)～1月24日(水)	022-246-9153
史跡陸奥国分寺・尼寺跡 ガイダンス施設	12月20日(水)～1月14日(日)	(教育局文化財課) 022-214-8893
瑞鳳殿	12月21日(木)～1月14日(日)	022-262-6250
仙台文学館	12月21日(木)～2月12日(月・振休)	022-271-3020
仙台市縄文の森広場	1月5日(金)～1月25日(木)	022-307-5665

※瑞鳳殿・仙台市歴史民俗資料館の展示場所は有料ゾーンとなりますので、見学には入館料が必要です

※仙台市歴史民俗資料館・仙台市戦災復興記念館・せんだいメディアテーク・仙臺緑彩館で展示するのは、樹脂製のレプリカです

※仙台市博物館は長期休館(～令和6年4月1日〔予定〕)のため、せんだいメディアテーク、仙臺緑彩館で展示を行います

※掲載した写真は令和4年度のものです

仙台の伝統的な門松

正月の伝統的な風景の一つに門松があります。現在よく飾られている門松は、斜めに切った三本の竹をワラで巻くという形ですが、かつて仙台北下周辺で飾られていた門松は、これとはまったく違う形のものでした。そして、藩主が住む仙台北城に飾られる門松は、実は根白石村(泉区根白石)の農民が付近の藩有林(御林)から切り出した材料で作られていたのです。

下の図は、江戸時代の版画の下絵に描かれた仙台北城下の門松です。まさしく門のような形に松などを取り付けたものでした。

①真柱(しんばしら)

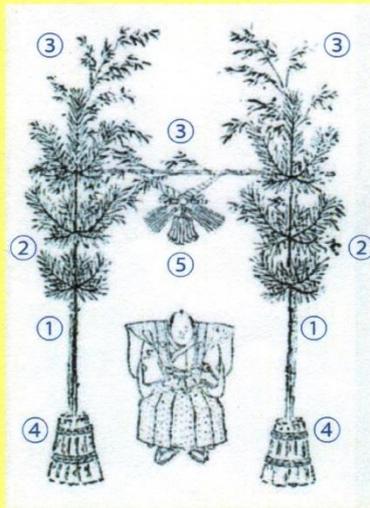
松などをくくり付けるための支柱でおもに栗の木が用いられます。

②三階松(さんがいまつ)

3層に枝分かれした松で、現在でも正月の松飾りは三階の松が基本となっています。仙台北城では五階、七階の松が使われました。

③笹竹

三階の松の上に取り付け、松と松をつなぐように横に渡すなどして使います。後者の場合、葉を落とした竹を用いることもあります。



④鬼打木(おにうちぎ)

3枚から12枚前後の板や割り木で、真柱の根元に巻き付けるものです。仙台北城では3枚でした。また、巻き付けずに数枚を横向きに縄で結んで真柱の下の方に垂らすものもあります。

⑤ケンダイ

松と松の間には「ケンダイ」と呼ばれるしめ飾りを付けます。ケンダイの中央には、スルメや昆布、柑橘類、炭などの縁起物が取り付けられます。

○仙台北城の門松と根白石村

仙台北城でも正月には城内の門に門松を飾りました。寛文10年(1670)ころの様子を記した古文書によると、全部で42カ所分の門松の材料が用意されたようです。

この古文書では、門松の真柱の長さを1丈1尺から1丈3尺、すなわち3mから4mとし、さらに用いられる松は五階と記しています。見上げるような大きな門松だったことがわかります。

○根白石村の御門松上人

こうした仙台北城で用いる門松の材料は、根白石村から納めるのが恒例となっていました。門松を納めるのは8つの家に限られ、その家の当主は「御門松上人(おんかどまつあげにん)」と呼ばれていました。

御門松上人たちは租税の一部を免除されるなどの特権を与えられていましたが、五階の松など大きな材料を集めるのには、毎年相当に苦労したようです。



天明3年(1783)から4年にかけて発生した天明飢饉の状況を描いた絵に見える佐沼(登米市)付近の門松
(仙台市博物館所蔵)

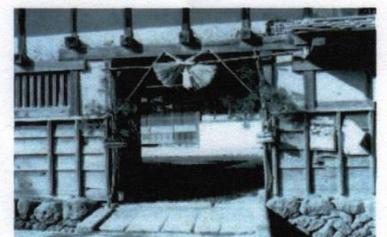
○根白石の門松

仙台北城の門松の姿を描いた資料は発見されていません。しかし、仙台北城に門松の材料を納めていた根白石の門松にその面影を見ることができそうです。

右の写真は昭和40年(1965)ころに根白石周辺で撮影されたものです。

上の写真に見える門松は、やや質素に見えますが、真柱、三階松、鬼打木、ケンダイといった門松の要素はしっかりと揃っています。

下の写真は、御門松上人の子孫の家で飾られていた門松で、鬼打木は、3枚の板が横向きに結んだ状態で真柱にくくり付けられています。



※写真はいずれも『祭礼と年中行事』(仙台市歴史民俗資料館)より転載

仙台の伝統門松ができあがるまでの様子を収録した映像作品『受け継ぐ—仙台の伝統門松—』(26分・令和3年度制作)を仙台市公式動画チャンネル「せんだいTube」で配信中！ぜひご覧ください。動画配信URL → <https://www.youtube.com/watch?v=zTZY15vU5GI>